

10月の技術対策（水稻）

平成19年10月1日

J A きたそらち・J A 北いぶき
空知農業改良普及センター北空知支所

今年の米作りをふり返ると、7月にやや気温が下がった時期があったものの、ほぼ高温に経過しました。この結果、高収量・低タンパクを達成出来た生産者の方も多かったのではないのでしょうか？さて、収穫作業も終わったばかりですが、来年の米作りは既に始まっています。

1 適切な稲わら処理・透排水性の改善

(1) 適切な稲わら処理

窒素肥沃度の高い水田や透排水性の悪い水田における稲わらの鍬込みは、移植後の稲わらの分解に伴う、土壌の還元化や生育阻害物質を生成させ、初期生育を不良にする原因となります。さらに、生育後半において窒素が無機化されタンパク含有率を高める原因となります。稲わらは極力搬出しましょう。ただし、地力が低く、透排水性の良い水田では秋鋤込が可能です。

- 稲わら・籾がらの焼却は、大気汚染・健康被害・交通障害などの原因になります。稲わら・籾がらは絶対に焼却しないでください。
- 稲わら等の焼却（野焼き）は、罰則が適用される場合があります。
廃棄物の焼却禁止違反：5年以下の懲役、1,000万円以下の罰金、又はこの併科。

(2) 表面水の排除

「溝切り」(図1)は、田面の停滞水や翌春の融雪水を排除するための有効な手段です。施工に当たっては、必ず排水口につなぎましょう。

(3) 透排水性の改善

透排水性改善のため、「心土破碎」(図2)や「モミ殻暗渠」を施工しましょう。特に心土破碎は、毎年実施することが重要です。降雨により地耐力の無くなった水田の場合は、積雪上から施工する「雪上心土破碎」が効果的です。

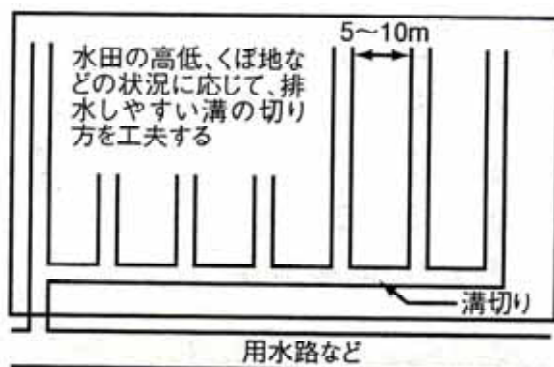


図1 溝切りの施工例

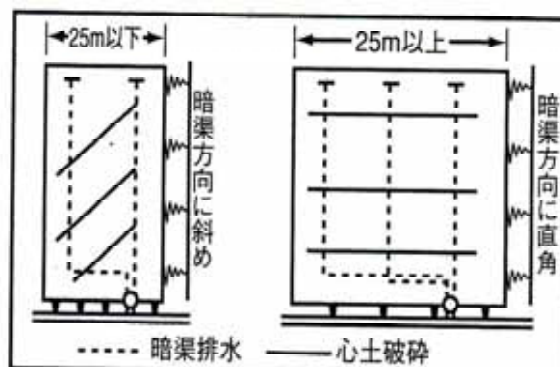


図2 心土破碎の施工例

2 来年の米作りに向けて

本年、稲作においていくつかの問題点が浮かび上がりました。来年の米作りに向けて検討してみましょう！

(1) 水田内雑草対策

本年は、例年になく水田内の雑草が目立ちました。

主な雑草として、「ヒエ」「エゾノサヤヌカグサ」「ミズアオイ」「オモダカ」などが見られました。また、近年、問題になっているSU抵抗性雑草などの難防除雑草も多数見られました。

ア 使用時期について

代かきから移植までの期間が長くなると、その間に雑草発生を助長します。

農薬使用基準を厳守するのは無論ですが、代かき後日数を考慮し散布遅れにならないように注意しましょう。

イ 選択除草剤について

残草に特定の草種が集中した場合は、次年度の除草剤の選択に考慮しましょう。

また、SU抵抗性雑草（例、イヌホタルイ、ミズアオイ、アゼナなど）など特定の薬剤に効果が劣る草種が残った場合は、除草剤の選択に十分留意しましょう。

ウ 散布環境・条件について

薬剤の特性・特徴を十分に理解し、効果的を最大限に発揮させましょう。

使用時の悪い例

アオミドロ・藻類が発生している状態で、フロアブル剤を散布している（薬剤拡散の抑制）。

田面の高低がある状態で、フロアブル剤を散布している（薬剤拡散ムラの助長）。

(2) 初期生育向上

本年は、6月の好天もあって初期の茎数が確保しやすい年でした。しかし、水田によっては、慢性的な茎数不足や後出来傾向も散見されました。

ア 植え付け深について

移植時の植え付け深によって、初期茎数の確保が大きく変わります。

深植えは、分けつを遅らせ、遅発分けつを助長します。

イ 側条施肥について

側条施肥機を効果的に活用し、初期生育向上に努めましょう。

